

今日は 西京極の体育館で、
ハンドボール新人戦がある。

後輩のするのを 先輩として 見にゆくのである。

おばあちゃんに 「お金。」と言ったら、

「お父ちゃん、お金くれはらへんし、ないのや。」

と、 おばあちゃんは 悲しい顔していた。

「京太、お金もってるかあ。」

と、おばあちゃんは、京太にお金を 借りようとする。

「京太に借りるくらいなら、

僕、まだ ちょっと 持ってるし、
自分ので たてかえとくし かまへん。」

と僕は言った。

僕は 部屋に戻り、机の向かい、
机の上の手まねネコの貯金箱を
しばらく、見つめた。

「よしー」と決断して、貯金箱をつぶした。
中から 全額取り出した。

七十枚ほどある十円銅貨が こぼれて出て来た。
その上に まるめた二枚の百円札が出てきた。

僕の気持ちは複雑だった